

一般社団法人日本造血細胞移植学会 平成 30 年度 認定 HCTC 資格更新申請手続き説明書

一般社団法人日本造血細胞移植学会 認定造血細胞移植コーディネーター（以下、「認定 HCTC (Hematopoietic Cell Transplant Coordinator)」と略す）の資格更新をされる方は、以下の通り、申請書類の提出をお願いいたします。

1. [様式 1] 認定 HCTC 資格更新申請書に必要事項を記入してください。申請書内の赤字で記載されている注意事項をよくお読みください。【認定 HCTC としての経験年数】と【認定 HCTC 資格取得以後のコーディネート件数】のカウントについて、以下の「HCTC の実務経験に関する注意事項」をよくお読みいただき、正しくカウントしてご報告ください。活動状況によっては、経験年数やコーディネート件数が認められない場合もあります。

－HCTC の実務経験に関する注意事項－

研修などによる所属施設以外での HCTC の経験については、雇用関係に基づいてその施設から正式な HCTC 業務の依頼が行われていない限り、その期間の長さに関わらず、HCTC の実務経験としてカウントすることを認めておりませんので、ご注意ください。

1. 経験年数について

■コーディネートとは、所属施設外にも及ぶ個人、グループ、組織を対象とした幅広い移植前後に至る調整プロセスで、病棟や外来で行われている通常の看護や診療とは異なります。病棟や外来の看護師、患者やドナーの担当医、日本骨髄バンクの調整医師などによる患者やドナーの支援は HCTC としての経験に含みませんので、ご注意ください。なお、通常の診療に従事せず HCTC 業務を専従職として行っている場合を除き、医師の申請は原則として認めません。

■HCTC 活動開始時期は、HCTC が移植チーム内に設置され、介入の際に HCTC であることを患者やドナー、家族に説明して業務を開始した時期であることが必須です。

【HCTC の具体的な業務内容】

「HCTC 標準業務リスト(https://www.jshct.com/organization/pdf/list_hctc.pdf)」でご確認ください。

リスト内の業務は HCTC の網羅的な業務の一覧で、すべての業務を実践している必要はありません。

ただし、認定 HCTC の必須項目については、HCTC が実践している必要があります。

＜患者コーディネート＞

・移植前／移植入院中／移植後の支援：意思決定支援、移植準備の支援、精神的・社会的支援、家族の支援、院内関連部門・院外機関との連携など

・血縁ドナーコーディネート

・骨髄バンクコーディネート：骨髄バンク登録説明・相談、骨髄バンク・採取施設との連絡調整など

・さい帯血バンクコーディネート：さい帯血バンク利用の説明、さい帯血バンクとの連絡調整など

＜ドナーコーディネート＞

・血縁ドナーコーディネート：意思決定支援、採取準備から採取後まで

ドナー家族の支援、院内関連部門・院外機関との連携など

・骨髄バンクドナーコーディネート：骨髄バンク・移植施設との連絡調整

骨髄バンクコーディネーターとの連携など

2. コーディネート件数について

■同種移植の症例に限ります。

■1 事例 1 申請者とし、複数の HCTC からの重複報告は認めておりません。同一事例に複数の HCTC が介入した場合は、申請者間で相談の上、最も多く関わった HCTC が事例としてカウントし報告してください。

■申請時点で移植や提供が未来日となる事例は件数に含みません。

<患者件数>

・移植適応と判断され意思決定に介入した段階から、生じた問題に対応し、移植が実施されるまでの全過程を支援することで、1 件とカウントします。

・移植に至らなかった、また、移植適応判断後の介入であった場合でも、十分な相談、支援がなされていれば、その支援内容について報告書[様式 3]を提出することで、カウントとして認めます

<血縁ドナー件数>

・HLA 検査前の提供に関する医学的説明と意思確認の段階から、採取前健康診断、採取の準備、幹細胞採取、採取後健康診断に至るまでの全過程を支援することで、1 件とカウントします。

・以下の①～④の場合、十分な相談、支援が行われていれば、その支援内容について、報告書[様式 5]を提出することで、カウントとして認めます。ただし、入院時からの介入はカウントできません。

①他施設ですでに HLA 検査が実施されているなどの理由で HLA 検査の時点から介入していない
(ただし、施設内に HLA 検査の段階から HCTC が介入する体制が構築されていることが条件です)

②HLA が適合しなかった

③提供に至らなかった

④採取後健診が他院で実施された など

・提供に至った血縁ドナーの件数をカウントする場合、ドナー登録している事例のみに限ります。

<非血縁ドナー件数>

・採取前健康診断から介入し、採取の準備、幹細胞採取、採取後健康診断に至るまでの全過程を支援することで、1 件とカウントします。

2. [様式 2]担当患者リスト、[様式 4]担当ドナーリストに、認定 HCTC 資格取得以後に HCTC として経験された患者 15 件、ドナー 15 件(内、血縁ドナー 5 件以上)を記入してください。患者、血縁ドナーとも、できるだけ全過程に介入している事例を記入してください。

件数のカウントについては、「HCTC の実務経験に関する注意事項」内にある「2. コーディネート件数について」をよくお読みください。

リスト内のドナー ID は、必要に応じて症例の問い合わせを行う場合に使用させていただきます。

3. [様式 3]担当患者支援報告書は、[様式 2]のリストの内、移植に至らなかった、また、移植適応判断後の介入であったなどの場合に、その支援内容について報告してください。

また、[様式 5]担当ドナー支援報告書は、[様式 4]のリストの内、血縁ドナーにおいて、以下の①～④の場合に、その支援内容について報告してください。

①他施設ですでに HLA 検査が実施されているなどの理由で HLA 検査の時点から介入していない
(ただし、施設内に HLA 検査の段階から HCTC が介入する体制が構築されていることが条件です)

- ②HLA が適合しなかった
- ③提供に至らなかった
- ④採取後健診が他院で実施された など

「HCTC の実務経験に関する注意事項」内にある「2. コーディネート件数について」に記載しているように、途中からの介入や、移植や提供に至らなかったケースについては、この報告書がなければカウントを認めませんので、申請の要件を満たしていないと判断されます。

4. [様式 6] 認定 HCTC 資格更新申請証明書に所属施設の移植責任医師および施設長の署名、捺印をお願いいたします。認定 HCTC の実績が複数施設に渡る場合は、前所属施設の[様式 6] 認定 HCTC 資格更新申請証明書による実務証明も必要となります。

5. [様式 7] 日本造血細胞移植学会学術総会および HCTC ブラッシュアップ研修会参加証明書に、認定 HCTC 資格取得あるいは資格更新後に申請時点から過去 3 年以内に参加した 2 回分の本学会学術総会 HCTC ブラッシュアップ研修会（注*: 第 41 回学術総会で開催の認定更新セミナーも含みます）について記載し、また、その研修会が開催された本学会学術総会の参加証または証明記録のコピーを貼付してください。参加証は、所属・氏名が記載されている部分のコピーをお願いします。証明記録は、筆頭演者や座長証明（抄録のコピーなど）、施設の出張命令書、出張申請書、旅費精算書、学会関連会議等を参加記録とします。

ただし、第 40 回日本造血細胞移植学会学術総会で開催されたブラッシュアップ研修会については受講書のコピー、第 41 回日本造血細胞移植学会学術総会で開催された認定更新セミナーについては、参加証明書のコピーを添付してください。

6. [様式 8] 認定更新審査料払込受領証明書に、払込受領証もしくは明細書のコピーを貼付してください。

7. 認定 HCTC 認定証のコピーを提出してください。

8. 個人情報について

1) 提出された申請書や報告書は審査のためだけに使用され、審査担当者以外の目に触れることはありません。また、審査担当者は審査に際して得た情報に対して、守秘義務を課せられています。

2) 事例対象者の特定に繋がりうる、必要不可欠ではない情報は記載しないでください。しかし、申請者が対象となる患者、ドナーについてどのようにアセスメントし、対応したかを理解できるような記載は審査上の必須条件となります。もしこの点に関して疑問点や問題点があればご相談ください。

①記載してはならない情報: 対象者の氏名、施設内の ID 番号、検査番号等、イニシャル、呼び名等

②例外の状況を除き、原則として記載してはならない情報:

A. 住所

●例外の状況: 患者とドナーの居住地域の地理的關係が重要であり、単に「遠方」「海外」といった記載では申請者のアセスメントや対応の理解が困難であると考えられる場合

●例外の場合の記載方法: 国名、地域名称(東北、関東など)とし、必要な場合であっても都道府県名までの記載にとどめる

B. 既に他院などで診断治療を受けている場合、その施設の名称、所在地

●例外の状況: 搬送元、紹介元の情報が不可欠な場合

●例外の場合の記載方法: 必要不可欠と考えられる範囲内で施設名を特定して記載可能

③日付の記載は、臨床経過を知る上で必要となる場合が多いので、個人の特定の可能性が高くない場合は、原則年月までを記載しても構いません。生年月日の記載もこれに準じます。

④提供年月日、日本造血細胞移植データセンタードナー登録番号、日本骨髓バンクドナーID:

実際に採取が行われた例であることを確認するために必要最低限の情報となります。日本造血細胞移植データセンター、日本骨髄バンクのデータベースにアクセス出来る権限がない限り、これらの情報から個人を特定することは困難です。

以上、チェックリストを使用し、申請書類をすべて揃えて書留やレターパックなど追跡可能な方法でご郵送ください。申請前に、誤字脱字や記載漏れなど書類の不備がないかを必ず確認するようお願いいたします。
また、書類審査にて資格更新要件を満たさないと判断された場合や、記載書類に不正があると認められた場合には、その時点で申請を却下し、以後の審査は行いませんので、ご注意ください。(HCTC 認定制度細則第 1 章第 2 条 3 項)

【申請先】

〒461-0047 名古屋市東区大幸南 1-1-20 名古屋大学医学部内
一般社団法人日本造血細胞移植学会事務 認定 HCTC 資格更新申請受付係

【申請期間】

平成 31 年 2 月 1 日(金)～平成 31 年 3 月 31 日(日) 必着
* 期間を過ぎますと受付できませんのでご注意ください。

【問い合わせ先】

書類に関してご不明な点は、下記へ御連絡ください。

一般社団法人日本造血細胞移植学会事務局

Tel: 052-719-1824 Fax: 052-719-1828 E-Mail: jshct_office@jshct.com

平成 30 年 12 月 28 日 HCTC 委員会